

(2) 教員の資質能力向上

現状と課題

- 子どもたちの課題解決能力や基礎的・汎用的能力<sup>\*</sup>を育成するためには、課題探究型や学び合いの授業手法等を取り入れた教員の実践的指導力が求められています。
- 発達障害等のある児童生徒の割合が増加しており、全ての児童生徒にとって分かる授業に改善する必要があります。
- いじめ、不登校への対応や、ICT活用等の時代の状況変化に対応したより高度な指導力が必要になっています。
- 教員の大量退職の時代に入っていることや少子化に伴う学校規模の縮小へ対応する必要があることから、対人関係能力に優れた人材や複数免許を有する教員等を確保する必要があります。
- 研修機関における教員研修に参加する時間確保の難しさや、学校の同僚性<sup>\*</sup>を発揮する観点から、学校現場の研修を支援する方法の工夫や、受講者の自主性を重視する研修等が求められています。
- 学校に対するニーズの多様化・高度化の中で、多くの教員が忙しさを感じています。優秀で意欲ある人材を教員として確保し、資質能力向上を図る上で、より働きやすい環境の整備が必要です。
- 教員による不祥事が多発している状況を受け、有識者や学校関係者による「教員の資質向上・教育制度あり方検討会議」において、倫理向上を図る抜本的な対応策や採用・人事、研修、評価などのあり方が検討されています。

表4- (2)-① 教員の勤務日・1日あたりの平均残業時間量・持ち帰り時間量

	残業時間量	持ち帰り時間量	残業時間+持ち帰り時間
小学校 (N=1,154)	1時間50分	29分	2時間19分
中学校 (N= 779)	2時間14分	20分	2時間34分
全体 (N=1,933)	2時間	25分	2時間25分

※1 残業……勤務日の出退勤時刻の内で正規の勤務時間以外で行われた業務及び休日の出退勤時刻の内に行った業務

※2 持ち帰り……勤務日及び休日での出勤時刻前、退勤時刻後に学校以外等で行われた業務のこと  
教育総務課「教育に関するアンケート調査(教員調査)」平成23年度

表4-(2)-②

◆教員が力をつけたい事項(上位3項目 ※複数選択) (%)

	小学校 (N=1, 154)		中学校 (N=779)		高等学校 (N=733)	
1	授業の進め方や指導方法に関すること	60.5	授業の進め方や指導方法に関すること	49.6	教科に対する専門性や知識	58.5
2	教科に対する専門性や知識	41.4	教科に対する専門性や知識	46.9	授業の進め方や指導方法に関すること	36.6
3	発達障害児の指導に関すること	31.4	生活指導や生徒指導に関すること	26.3	進路指導に関すること	25.1

◆そのために望ましい手段(下段かっこ内数値 実際に行っている割合)

(上位3項目 ※複数選択) (%)

	小学校 (N=1, 154)		中学校 (N=779)		高等学校 (N=733)	
1	総合教育センター、教育事務所での研修会に参加する	71.8 (28.4)	校内で先輩・同僚からアドバイスを仰いだり、意見交換を行ったりする	65.9 (74.1)	校外のその他の研修会(学会、研究会など含む)に参加する	63.8 (21.6)
2	校内で先輩・同僚からアドバイスを仰いだり、意見交換を行ったりする	59.6 (70.5)	総合教育センター、教育事務所での研修会に参加する	64.7 (33.8)	校内で先輩・同僚からアドバイスを仰いだり、意見交換を行ったりする	55.3 (62.1)
3	校外のその他の研修会(学会、研究会など含む)に参加する	47.1 (22.0)	校外のその他の研修会(学会、研究会など含む)に参加する	45.8 (22.0)	関連する雑誌や本を読む	50.5 (68.6)

教育総務課「教育に関するアンケート調査(教員調査)」平成23年度

第1次計画の成果と課題

- 公立学校の女性校長・教頭の割合は、積極的な登用と管理職としての必要な指導力・資質を高めるための研修の実施などにより、概ね目標を達成する見込みとなっています。引続き、性別に関係なく働きやすい職場環境づくり等により女性管理職の積極的な登用を進める必要があります。

【第1次計画 目標達成見込】			
達成目標	目標値(H27)	H23 実績値	達成予測
公立学校の女性校長・教頭の割合(小・中)	14.0%	12.6%	概ね達成
公立学校の女性校長・教頭の割合(高)	6.0%	5.7%	

### 成果目標

- 教員としての基本的な能力（授業力、生徒指導力、学級経営力等）と、様々に変化する教育課題を解決する力を身に付けられるようにします。
- 教員が、性別に関わりなく能力を十分発揮できるよう環境を整備します。

### 測定指標

測定指標項目	現状値	平成29年度の目標	備考
校内外で実践的な研修を行っている学校の割合	66.6% (平成24年度)	90.0%	教学指導課「学校経営概要のまとめ—小・中学校編」「高等学校編」
女性教員の管理職登用状況 (公立小中学校の女性校長・教頭の割合)	12.7% (平成24年度)	15.0%	文部科学省「学校基本調査」
女性教員の管理職登用状況 (公立高等学校の女性校長・教頭の割合)	6.2% (平成24年度)	7.0%	文部科学省「学校基本調査」

### 主な施策の展開

教員の資質能力の向上を図るために、次のような取組を進めます。

#### ① 教員の倫理、指導力、専門性、社会性向上

- 「教員の資質向上・教育制度あり方検討会議」からの提言を踏まえ、教員の不祥事再発防止のための抜本的な対策に取り組みます。【教育委員会事務局全課（室）、次世代サポート課】
- ライフステージに応じた研修体系を構築し、教員のミッション（使命）を実現するための研修の内容と方法等について検討・実施します。【義務教育課、高校教育課、特別支援教育課、教学指導課】
- 発達障害等のある児童生徒も含めて、すべての児童生徒にとって分かる授業となるよう、授業のユニバーサルデザイン化（全員が楽しく「わかる・できる」授業への改善）の実践を促進するとともに、教員の専門性の向上を図ります。【義務教育課、高校教育課、特別支援教育課、教学指導課】
- 理数教育や外国語教育等の中核となる教員の養成等について、大学等との連携により、専門性の向上を図ります。【教学指導課】
- 学校の諸課題の解決に向け、適切な人材を管理職に登用することに努めるとともに、女性教員の管理職等への積極的登用に努めます。【義務教育課、高校教育課】
- セルフケア、ラインケア、スタッフケア、専門家ケア<sup>\*</sup>によるメンタルヘルス対策の推進により、教員の心身の健康の保持増進を図ります。【保健厚生課】
- 児童生徒理解のための研修会を行い、いじめ不登校に関する教員の指導力の向上を

図ります。【心の支援室】

- ICTを活用した分かりやすい教材や指導方法等の情報を教員に提供し、授業づくりを支援します。【教学指導課】

## ② 優秀な教員の確保

- 教員養成大学と県教育委員会とが連携して、学校が求める教員像や課題認識等を共有し、養成段階を含めた優秀な教員の確保を図ります。【教育総務課、義務教育課、高校教育課、特別支援教育課、教学指導課】
- 社会変化への対応や地域のニーズを踏まえた教員を確保するため、社会人選考や特別選考等の多様な経験を評価する視点の教員採用選考や民間人面接官起用などによる人物重視の幅広い視点での選考を実施します。【義務教育課、高校教育課、特別支援教育課】
- 適正な教員評価を通じて教員自らの自律的な成長を促し、教員の資質能力の向上を図ります。【義務教育課、高校教育課、特別支援教育課】

## ③ 校内研修等効果的な研修実施

- 校内研修を活性化するため、効果的な研修方法の紹介や使用する資料の提供、指導主事による訪問、外部講師の派遣等の学校への支援を推進します。【教学指導課】

## ④ 働きやすい環境づくり

- 既に実施されている会議等のあり方の見直しや学校等への各種調査の見直しについて、内容の徹底を図るとともに、実施状況を点検し、学校現場及び市町村教育委員会の事務負担軽減を図ります。【教育総務課、義務教育課、高校教育課、教学指導課】
- 各校での時間外勤務縮減や部活動の適正化等に向けた具体的な取組を促進し、教員の児童生徒と向き合う時間の確保や仕事と家庭の両立を支援します。【義務教育課、高校教育課、特別支援教育課、教学指導課、スポーツ課】
- 校務のICT利用環境を整備し、情報セキュリティの向上や校務処理の電子化・共有化による校務の負担軽減・効率化を図ります。【高校教育課、特別支援教育課、教学指導課】



教員の資質向上・教育制度あり方検討会議